

エピソード（萩・ハギの花）

「尾張の国 萩原は萩の花の満ち溢れ、万葉集にでてくる万葉公園と萩原宿があり、宿場として歴史は古い。万葉集の花の歌の中でハギの花に関する歌が、142首で一番多いといわれる。万葉集によればハギの花は日本人だけが愛でる花といわれている。」

「折にあひて所を聞けば萩原の秋の初めの旅の行く末」この歌は、上洛中の3代将軍徳川家光公が、萩原を通った折、薄紫に咲き誇る萩の美しさに感動して詠んだ歌です。

古来、自然生えの萩群落をなしていた「萩の原」を、先人のたゆまぬ努力によって開墾され、「萩原」と名付けられました。安土桃山時代には「尾州中島郡萩原」と呼ばれ、江戸時代には「美濃路の萩原宿」として栄え、今日の繁栄を築いてきました。（参考「萩原町史」）

下記のイラストは、萩原公民館の改築を記念して、萩原中学校の生徒が地名の由来になったハギ(萩)をモチーフにした壁画を制作し、ライトコートに咲かしてくれた萩の花です。



萩の花